



津波を想定した旅客・船舶の緊急避難体制の実証実験を実施しました。

平成29年11月7日（火）に瀬戸内海汽船株式会社の定期航路（広島・呉～松山）を航行するフェリー内や広島港宇品旅客ターミナル等において、旅客船事業者の津波避難マニュアルに基づく緊急避難体制の実証実験を実施しました。

当日、総勢64名の参加（参加機関12機関）を得て、船長と船社（運航管理者）の間での津波警報の情報の伝達及びフェリーの津波警報にかかる対応の協議、船長による船内放送を使用した旅客への避難にかかる情報伝達、旅客の救命胴衣の着用、ターミナル及び電停・バス停の待合客の避難誘導等を実施しました。

この取組は、「津波防災の日（11月5日）」の取組の一環として、防災意識の向上、適切な避難行動に関して国民の理解と関心を深めることを目的に「中国地方の防災に関する連絡会 緊急輸送専門部会（事務局：中国運輸局）」が関係機関と連携し行ったものです。



この実証実験を実施するにあたって、海上交通事業者、陸上交通事業者、国及び自治体等の関係機関で検討を重ねた結果、津波に対する共通の認識を深め、連携の強化が図られたものと思われます。

今後、参加機関による意見交換会を実施し、津波対応にかかる緊急避難体制の十分な検証を行い、その検証結果を旅客船事業者はもとより陸上交通事業者、防災関係団体にも広く提供し、各社の津波避難対策に役立て頂きたいと考えています。

